

## 先人の技術を継承し甦る稗原発電所～竣工式～



J A山口東は8月3日に、施設の老朽化等に伴い昨年7月から総額6億5千万円をかけ水圧鉄管や水車等の更新工事をおこなっていた稗原発電所（岩国市錦町）の竣工式を開きました。関係者、役職員合わせて約60名が出席しました。竣工式で神尾透組合長は「昨年7月に工事を着工して以来、各関係者のご尽力により、本日無事施工の日を迎えることができました。半世紀前に先人が大変なご苦労の上に英知を結集して建設された稗原発電所は地域の貴重な財産です。先人の技術を継承し甦る稗原発電所との銘板のごとくこの度より良い形で次代に継承することができました。今後末永く地域社会に貢献し、地域のみなさまに親しまれ、愛されることを心より願います。」とあいさつしました。

竣工式終了後にテープカットを行い、神尾透組合長が発電の起動スイッチを入れ送電を開始しました。

平成24年施行の再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）に合わせ今回の更新工事に踏み切りました。鉄筋コンクリートの平屋は約60平方メートルで、取水口から約1.5キロ導水路から水を引き込み水車を回して発電します。最大出力は310キロワットで、発電した電気は1キロワット当たり29円（税別）で中国電力に売電します。県内JAでは唯一水力発電事業に取り組んでおり、当発電所は1967年に建設し、錦川水系の大野川や屋敷川等を取水源に約50年間発電してきました。

